

ユーザー マニュアル

コンテンツ

5 イン트로ダクション

6 ハードウェア

- 6 最小システム要件

7 ソフトウェアのインストール

- 7 インストール (Mac OSX)
- 7 インストール (PC)

8 はじめに

- 8 ソフトウェアの起動
- 9 ソフトウェアの概要

11 音楽をインポートする

- 11 Serato DJ Introライブラリにファイルを追加する
- 11 外付けハードドライブ
- 11 iTunesライブラリを表示する
- 12 Serato DJ IntroにCDから音楽を取り込む方法
- 12 サポートされるファイルの種類
- 12 破損ファイルについて

13 ファイルを準備する

- 13 オフラインプレイヤー
- 13 マスターゲイン
- 13 ファイルを分析する
- 13 ファイルを分析する方法
- 13 ファイルの再分析
- 13 オート BPM の設定 (Set Auto BPM)
- 14 BPM の範囲
- 14 トラックをロックする
- 14 デッキロードでトラックを分析する
- 15 マウスとキーボードの操作
- 15 ハードウェアの操作
- 15 検索
- 15 ライブラリのステータスアイコン
- 16 準備

17 ライブラリを整理／管理する

- 17 ライブラリを整理する
- 17 クレート (Crates)
- 17 サブクレート (Subcrates)
- 17 列を設定する
- 18 ID3タグを編集する
- 18 ライブラリの自動バックアップ
- 18 再スキャンID3タグ
- 18 Serato ITCH／Scratch Live互換性
- 18 表示モード

19 メイン画面の概要

- 19 バーチャルデッキ
- 19 トラック表示
- 19 タップテンポ
- 20 トラックの概要の表示
- 20 メイン波形の表示 (Main Waveform Display)
- 20 テンポマッチングの表示 (Tempo Matching Display)
- 21 ビートマッチングの表示 (Beat Matching Display)
- 21 ビートマッチのためのビジュアルエイド (Visual Aids) 使用例

22 ミキシング

- 22 ミキシング&再生
- 22 次のトラックを見つける
- 22 デッキにロードする
- 22 再生
- 22 連続自動再生
- 22 トラックのピッチ／スピードを調節する
- 22 トラックを同じタイミングにする

23 キューポイント (Cue Points)

- 23 キューポイントの削除／追加
- 23 キューポイントをトリガーする
- 23 キューポイントのキーボードショートカット
- 23 ビジュアルエイド：キューポイントステータス
- 24 仮のキュー

25 ループ (Looping)

- 25 マニュアルループ
- 25 オートループ

26 同期

- 26 相対ピッチ&ピッチコントロール
- 26 平均BPMとテンポ変更

27 サンプルプレイヤー

- 27 サンプルプレイヤーの概要
- 27 サンプルプレイヤーに音楽をロードする
- 27 サンプルを再生する
- 27 サンプルプレイヤーの 'Play From' セレクター
- 28 サンプルプレイヤーのトラックの概要
- 28 サンプルプレイヤーの音量

29 DJ-FX

- 29 ビートマルチプレイヤー
- 29 テンポソース

30 追加の設定

- 30 画面の設定

31 一般的な操作

- 31 Shiftを使ったプレイバックキー
- 31 インスタントダブルス
- 31 アウトプット
- 31 オートゲインの使用
- 31 iTunesライブラリを表示
- 31 アップデートのチェック

32 ハードウェア

- 32 USB バッファサイズ (レイテンシー)

33 ショートカット

- 33 キーボードのショートカット

34 トラブルシューティング

35 SERATO DJを試す

イントロダクション

Serato DJ Intro 1.1.2ソフトウェアのマニュアルへようこそ。

Serato DJ Introは、選曲者とDJの皆さんに新しい種類のコントロールを楽しんでいただくため設計されたソフトウェアとハードウェアの統合システムです。

Serato DJ Introソフトウェアを使えばあなたのコンピューターで、サポートされたハードウェアのセットから正確なコントロールでDJミュージックを楽しんでいただけます。

ハードウェア

このマニュアルは、Serato DJ Introの一般的な情報を記載しています。

ハードウェアの設定、コントロール、トラブルシューティングの情報は、ハードウェアのマニュアルをご確認ください。

最小システム要件

ソフトウェアをインストールする前に、あなたのコンピューターがご使用のハードウェアコントローラーの最小システム要件を満たしていることを確認してください。その最小の仕様は、ハードウェアのマニュアルかハードウェアメーカーのウェブサイトを確認できます。

注:これらはSerato DJ Introを作動させるために最低限の条件です。最高のパフォーマンスや、プロフェッショナルな用途でご使用の場合は、より高スペックなコンピューターのご使用を推奨いたします。

ソフトウェアのインストール

インストール (Mac OSX)

インストールする前に、Serato DJ Introの最新バージョンをウェブサイトからダウンロードしインストールすることを推奨します。

Serato DJ Introをインストールするには

- Finder を使って、Serato DJ Introのダウンロードが保存された場所を確認してください。
- Serato DJ Intro Zipファイルをダブルクリックして解凍してください。
- エンドユーザーライセンス同意書に同意してください。
- .dmgファイルをダブルクリックし、システムにイメージを取り込み、そのボリュームを確認してください。
- “Serato DJ Intro” という名前のファイルを、ディスクイメージ (Disc Image) のアプリケーションフォルダ (Applications folder) へドラッグしてください。

これでアプリケーションフォルダからSerato DJ Introを起動させることができます。クイックアクセスには、あなたのDockにアプリケーションをドラッグしてください。

インストール (PC)

インストールする前に、Serato DJ Introの最新バージョンをウェブサイトからダウンロードしてインストールすることを推奨します。

Serato DJ Introをインストールするには

- Windows ExplorerでSerato DJ Introのダウンロードが保存されている場所を確認し、そのZipファイルを解凍し、抽出コンテンツを確認してください。
- “Serato DJ Intro_installer.exe” ファイルをダブルクリックしてください。
- セットアップ ウィザード が表示されたら、Nextをクリックしてください。
- ライセンス同意書に同意し、Nextをクリックしてください。
- インストールするロケーションを選択し、Nextをクリックしてください。
- インストール時に実行される追加のタスクを選択してください。
- インストールプロセスを開始するため、Installをクリックしてください。
- Serato DJ Introがインストールが始まります。
- インストールが完了すると、確認画面が表示されます。

はじめに

ソフトウェアの起動

Mac OS X

Serato DJ Introは、アプリケーションフォルダにインストールされています。

アプリケーションフォルダのSerato DJ Introのアイコンをダブルクリックして起動させてください。簡単に起動させるためには、このアイコンをクリックしてDockにドラッグしてください。

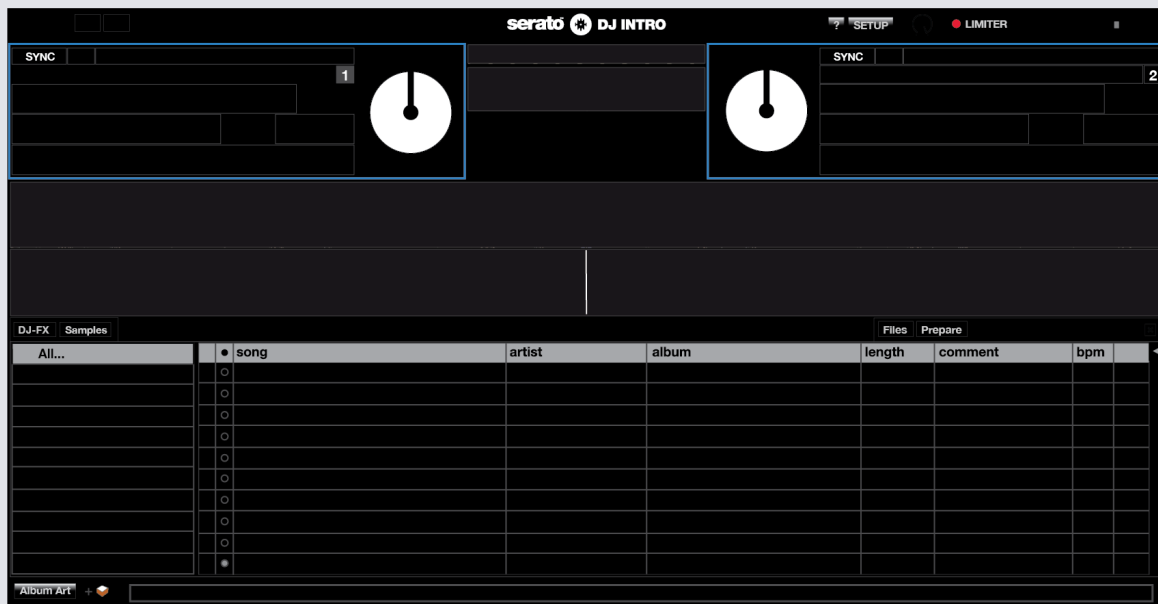
Windows

Serato DJ Introは次の場所にインストールされています：

- **Windows XP**： スタート > プログラム > Serato DJ Intro
- **Windows Vista & Windows 7**： Windows メニュー>すべてのプログラム>Serato > Serato DJ > Serato DJ Intro

WindowsでSerato DJ Introを起動するには、デスクトップのショートカットアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューのなかのSerato DJ Intro.exeのアイコンをクリックしてください。

注：Serato DJ Introを開く前にハードウェアを接続してください。Serato DJ Introが起動したとき自動的にハードウェアを検出します。無事に検出されると“virtual decks (バーチャルデッキ)”のこの画面が表示されます。



ソフトウェアの概要

下記のチャートは、Serato DJ Introのメイン画面の概要です。それぞれのポイントの詳細は、このマニュアルの中でさらに詳しく説明されています。

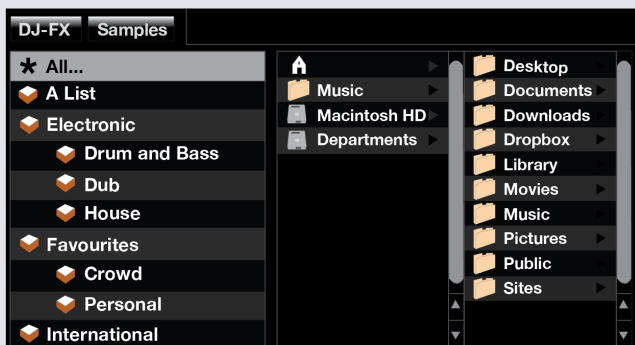


1	水平モード ディスプレイモードを水平の波形に変えます。
2	垂直モード ディスプレイモードを垂直の波形に変えます。
3	再生ヘッド トラックの波形の概要で再生ヘッドの位置を表示します。
4	キー トラックの "key" ID3タグ (使用可能な場合) を表示します。
5	ピッチ ピッチオフセットをパーセンテージ (%) (PITCH FADERの位置によって決定される) で適用します。
6	BPMフィールド トラックのBPMを表示します。タイミング外の "tap" は、このフィールドをクリックすることができます。そこからソフトウェアが新しいBPMを見積もり保存します。トラックにBPMが存在しない場合は、提案されたテンポをタップするよう求める "Tap" が表示されます。
7	バーチャルデッキ 再生中に回転します。
8	ビートマッチングの表示 ビートマッチングを支援するために"トランジェント" (通常はドラムヒット) を表示します。
9	テンポマッチングの表示 ミキシングプロセスに役立つ、両方のデッキのテンポを表示する。
10	ツールヒント Tool Tipディスプレイの有効/無効を設定します。マウスを合わせると、ソフトウェアの機能を説明するダイアルボックスを表示します。
11	設定 ソフトウェアの設定画面を表示します。
12	マスター出力ノブ Serato DJ Introのマスター出力の音量を調整するには、Master Output knobを使います。
13	リミッター リミッターが作動したときに点灯します。
14	トラックの概要 ロードされているトラックの全体波形の概要。
15	CPUメーター CPUの使用パーセンテージを表示します。
16	トラックタイムの表示 トラック内のAudio Pointerの現在位置を表示します。経過時間から残り時間に切り替えるときクリックしてください。
17	検索 このフィールドに入力したテキストをライブラリ内で検索 (Search) します。

18	準備 セットに事前に選択したトラックを含む準備パネル (Prepare Panel) に表示します。
19	ファイル ハードドライブ上のトラックを検索することができるファイルパネル (Files Panel) を表示します。
20	ステータスバー 現在の選択アイテムのステータスを表示します。
21	新しいクレート追加 新しいクレートを追加します (Add New Crate)。
22	アルバムアート ライブラリ内の現在の選択されているファイルのアルバムアートを表示するAlbum Art パネルを、開／閉します (使用可能な場合)。
23	ライブラリ 現在のライブラリ (Library) で再生可能なトラックを表示します。
24	クレート クレート (Crates) と使用可能なサブクレート (Sub-Crates) のリストを表示します。
25	DJ-FX DJ-FX パネルを開／閉します。
26	サンプル サンプルプレイヤータブを開／閉します。
27	キーロック キーロックのオンとオフを切り替えます。
28	波形 現在ロードされているトラックの波形。
29	プレイバックモード “シングル” と “連続” のプレイバックモードを切り替えます。Single Playback Modeでは1トラックのみを再生し、それが終了すると停止します。Continuous Playback Modeでは、1トラックが終了したときクレート内の次のトラックを自動的に再生します。新しいトラックがロードされるときいつでも、この設定は同じままです。
30	アーティスト名 現在のトラックの “Artist” タグ。
31	トラック名 現在のトラックの “Title” タグ。

音楽をインポートする

Serato DJ Introライブラリへファイルを追加する



ライブラリに音楽をロードする最も簡単な方法は、Filesボタンを使うことです。

- 1 ファイルパネルを開くには、FILESボタンをクリックします。このウィンドウの左側に、コンピュータのハードドライブ（および、接続がある場合は外付けドライブ）上のさまざまなロケーションが表示されます。音楽を検索して見つけるために、これらのロケーションをクリックしてください。デフォルトでは、あなたの音楽は通常、“ミュージック” (Mac)、または“マイミュージック” (Windows) にあります。
- 2 あなたの音楽を見つけたら、あなたがインポートしたいフォルダまたはファイルを、“All...” という紫のアイコンの上にドラッグします。これは、クレートとプレイリストウィンドウの一番上にある画面の左側に位置しています。音楽すべてをインポートしたい場合は、あなたのすべての音楽フォルダをこのアイコンにドラッグしてください。これはSerato DJ Introライブラリにあなたのハードドライブから、このマスターフォルダに含まれるすべての互換性のあるファイルをインポートします。

ヒント: Serato DJ IntroライブラリにWindowsエクスプローラ (PC) またはFinder (Mac) から直接ファイルやフォルダをドラッグしてインポートすることができます。

ファイルパネルからいずれかのデッキにファイルをロードすることで、ライブラリに自動的に追加されます。

ヒント: クレートのビューにフォルダをドラッグすると、瞬時にクレートを作成します。

詳細については、[クレートを参照してください](#)。

外付けハードドライブ

お使いのコンピュータに接続されているすべての外付けハードドライブは、ファイルパネルに表示されます。コンピュータの内蔵ハードドライブからインポートするときと同じように、外付けドライブからライブラリにファイルを追加することができます。

Serato DJ Intro起動時に外付けハードドライブが接続されていない場合、このドライブから追加されたファイルはあなたのライブラリに表示されません。

外付けドライブ上のファイルのライブラリ情報は、外付けドライブ自体に保存されています。つまり、外付けドライブ上のトラックをライブラリに追加して、その後その外付けドライブをSerato DJ Introを実行する別のマシンに接続したとき、クレートとトラックは別のマシンのライブラリに自動的に表示される、ということを意味します。

iTunesライブラリを表示する

Serato DJ Intro は、iTunesの音楽の再生やプレイリストにアクセスするため、iTunes™のライブラリをインポートすることができます。この機能を有効にするには、設定画面に移動してライブラリタブを開き、iTunesライブラリ表示のチェックボックスをオンにします。

注: iTunesライブラリは、青色の小さな三角形のiTunesフォルダアイコンを押すことで小さくすることができます。

Serato DJ Intro にCDから音楽を取り込む方法

Serato DJ Introには、CDリッピング機能がありません。オーディオCDをSerato DJ Intro に適用するファイルタイプに変換するために、サードパーティのアプリケーションのご使用を推奨します。また、音質とファイルサイズのバランスに適している320 kbpsのMP3ファイルを推奨します。

注: 直接CDから再生するよりも、CDをリッピングすることを推奨します。

詳細については、[iTunes](#)を参照して下さい。

サポートされているファイルの種類

.MP3

.OGG

.AAC

.ALAC

.AIF

.WAV

固定、可変ビットレート (VBR) のどちらのファイルもサポートされています。

DRMで保護されたトラックはSerato DJ Introと互換性がありません。

詳細については、[DRMのページ](#)を参照してください。

破損ファイルについて



もしライブラリに破損ファイルがある場合、破損タイプの情報の確認のためにステータスアイコン上にマウスポインターを置いてください。

ファイルを準備する

オフラインプレイヤー



オフラインプレイヤーは、クレートを準備して、トラックを試聴し、キューポイントを設定するための便利なツールです。ハードウェアが接続されていないときオフラインプレイヤーは使用可能で、現在のデフォルトのオーディオデバイスを介して出力されます。

オフラインプレイヤーにドラッグ&ドロップするか、またはShift + 左矢印を押して、オフラインのプレイヤーにトラックをロードしてください。ロードされたトラックが終わりに達したとき、現在のプレイリスト内の次のトラックが自動的に再生されます。

マスターゲイン (Master Gain)

オフラインプレイヤーでSerato DJ Introのマスター出力の音量を調整するためには、マスター出力ノブ (master output knob) を使用してください。

ファイルを分析する

Analyze Files

ファイルの分析機能は、ファイルの破損を検出して、波形の概要を準備し、ライブラリ内のトラックを処理します。もし有効な場合は、BPMの値を計算します。

ユーザーはSerato DJ Introで再生をする前に、ファイルの分析をすることを推奨します。

注: ハードウェアが接続されると、Auto BPMが有効になります。デッキにファイルをドラッグするときに、これらの値を用いて新しいトラックを分析したい場合はこれをチェックしてください。

ファイルを分析する方法

ファイルを分析するには、ハードウェア接続を切断してSerato DJ Introを開いてください。ファイルの分析ボタンが表示されるので、これをクリックすると自動的にライブラリ内のすべてのトラックを分析します。

Analyze Files

Set Auto BPM Range 68 - 135

ヒント: また、一度に少数のファイルや特定のグループを分析するために、個々のフォルダやクレート、ファイルをこのボタンにドラッグ&ドロップすることができます。

ファイルの再分析

以前に分析したトラックは再分析することができます。そのトラック、または複数のトラック、またはクレート全体をAnalyze Filesボタンにドラッグしてください。

Serato DJで、ライブラリ内のすべてのファイルの再分析を強制するには、Ctrlを押しながらAnalyze filesボタンをクリックします。

注: Analyze Filesのルールは、Set Auto BPMに適用されません。

Set Auto BPM (オートBPM の設定)

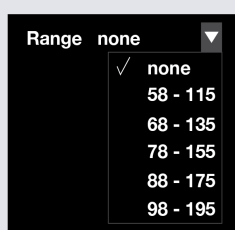
このオプションがチェックされている場合、Serato DJ IntroはBPMを計算し、ファイル分析プロセスの間にファイルにその値を追加します。

Set Auto BPMは分析ファイルプロセスの一部であり、それは以下の場合を除き、分析済みのいかなるファイルにも適用されません：

- トラックやトラックのグループの分析を強制して、別のBPM範囲を選択するとき。
- トラックやトラックのグループの分析を強制して、現在のBPMとは異なる計算BPMの値にするとき。

BPM の範囲

このドロップダウンの範囲では、トラックのBPMの範囲を指定することができます。正しい範囲を選択することで、Set Auto BPMを使って計算されたBPM値がハーフやダブルになることを避けるのに役立ちます。



例えば：ハウストラックのセレクションがあり、BPMの範囲は120～130と推測します。下限と上限を設定し、範囲ドロップダウンを68～135 BPMと設定します。こうすることで、Serato DJ Introで120 BPMのファイルを実行したとき、それが半分の値の60BPM (60 BPMは68 BPMの下限値設定よりも低い) ではなく、120 BPMであることを確かにします。

注：間違ったBPM値をもつトラックを見つけた場合、BPMの範囲はオフラインプレイヤーで正すことができます。

トラックのロック



トラックがステータス列にオレンジ色のロックトラック記号を表示する場合、トラック自体のファイル情報を変更することはできません。

トラックの情報は、Serato DJ Introで永久的に変更することはできません。これはBPM、波形、キューポイント、他のメタデータ情報を含みます。ただし、セッション時にそのトラックの情報を調整することができます。しかしこの情報は、情報が保持されるファイルのメタタグに保存 (書き込み) されません。

間違ってフォーマットされたハードドライブの使用により、ファイルがロックされる場合があります。(例：Windows PC上でフォーマットされたNTFSドライブを、それを読み取ることができるMacで使おうとした場合) または、そのファイル自体がロックされている可能性があります。トラックがロックされているかどうかを確認するには、Serato DJ Introにあるトラックをハイライトで表示し、Ctrl+Rでハードドライブ上のファイルを "Reveal (明らかに)" します。

次に、コマンド+I (Macの '情報を見る') または、Alt+Enter (Windowsの 'プロパティ') を押してください。

そして、トラックがRead Only (読み取り専用)、またはファイルへの書き込み権限を持っているか確認してください。

デッキロードでのトラック分析

未分析のトラックをロードするには、Analyze Filesのルールに従ってください。オフラインプレイヤーでSet Auto BPMをチェックすることで、トラックをバーチャルデッキかSerato DJ Introのサンプルスロットにロードするとき、BPMの設定をすることができます。

以前に分析済みのトラックのロードは、もしトラックが何もBPMを持っていない場合、BPMを設定しません。

注：実行時にこの機能をご希望の場合は、これらのオプションがオフラインプレイヤーでチェックされていることを確認してください。

ライブラリの操作

このライブラリには、Serato DJ Introに追加したすべての音楽が含まれます。browseとsearchを使って簡単に選択肢を絞り、お探しのトラックを見つけることができます。

ヒント: Ctrl+とCtrl-のキーボードのショートカットを使って、ライブラリのテキストのサイズを変更することができます。

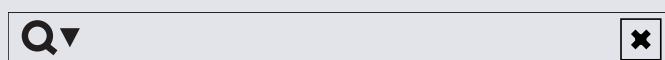
マウスとキーボードの操作

ライブラリを操作するために、カーソルキーやマウスを使用することができます。カーソルキーはUP、DOWN、FWD、BACKとして機能します。

ハードウェアの操作

ライブラリを操作するために、ハードウェアのコントロールを使用することができます。詳細については、ハードウェアマニュアルを参照してください。

検索



Serato DJ Introには、すばやく簡単にトラックを見つける検索機能があります。searchボックスに文字を入力するだけで、Serato DJが自動的に入力したものを見つけます。

ヒント: searchボックスにジャンプするには、キーボードショートカットのCtrl+Fを使用してください。このキーボードショートカットはまた、あなたがいるクレートやプレイリストからメインライブラリに連れ出すので、あなたのコレクションのなかのどんなトラックも見つけることができます。それからクレートやプレイリストをクリックすると、検索クエリはクリアになります。検索機能が調べたフィールドを選択する場合、検索ボックスの左側をクリックしてください。ドロップダウンメニューはどのフィールドが現在使われているかを表示します。検索をクリアするには、ESCか、searchボックスの右側にあるXボタンを押してください。

ライブラリのステータスアイコン

一番左の列には各トラックのステータスが表示されます。これらのアイコンの例は以下の通りです:



Serato DJ Introは、MP3ファイル内の一部の破損を検出しました。可能な場合は、MP3を再エンコードしてください。



トラックはiTunesライブラリからインポートされました。



トラックはiTunesからインポートされましたが、破損しています。



トラックが見つかりません。ファイルの名前が変更されたか、移動された可能性が高いです。



Serato DJ IntroはiTunesライブラリから曲をインポートしようとしていますが、ファイルを見つけることができません。



トラックがロックされています。

詳細については、トラックのロックを参照してください。

準備

準備 (prepare) ウィンドウは、トラックを待機するエリアです。セットを準備するために、レコードを袋から取り出して手に持っているような状態です。準備パネルを開くには、Serato DJ Introのprepareボタンをクリックしてください。キーボードを使ってライブラリを操作し、マウスを使ってトラックやクレートを準備ウィンドウまたは準備タブ上にドラッグしてください。

これらのトラックは、再生された後、準備パネルから削除されます。Serato DJ Introを終了するとき、準備パネルのすべてのトラックが破棄されます。

ヒント: 準備ウィンドウにトラックを追加するには、キーボードショートカットの `ctrl-p` を使用してください。

ヒント: 準備ウィンドウのコンテンツを選択して、そのセクションを保存するため、それらを `new crate` ボタン (+) にドラッグしてください。

ライブラリを整理／管理する

ライブラリを整理する

Serato DJ Introでは無制限数のトラックをサポートすることができます。唯一の制限は、コンピューターのハードドライブのサイズです。多くの機能が音楽を整理し、すばやく簡単にトラックを見つけるのに役立ちます。

クレート (Crates)

Serato DJ Introは、お気に入りのコレクションにすばやくアクセスするため、デジタルクレートを使用しています。あなたが作成できるクレートの数には制限がなく、どのトラックも複数のクレートに配置することができます。クレートエリアは、ライブラリの左側にあります。

例えば、トラックを次のようなクレートに整理することができます。1つのトラックが複数のクレートにファイルすることもできます。

- ヒップホップ
- フレンチヒップホップ
- UK ヒップホップ
- インスタカクテルヒップホップ
- オールドスクールヒップホップ
- ヒップホップ LP

新しいクレートを作成するには、+ボタンをクリックしてください。クレートの名前を変更するには、クレートの名前をダブルクリックします。クレート内のトラックを上下にドラッグして、順番を変更することもできます。

サブクレート (Subcrates)

クレートを他のクレートにドラッグ&ドロップして、サブクレートを作ることができます。クレートをクレートパネルの左端にドラッグすると、クレートストラクチャーの最上部に留まります。クレートを少し右にドラッグし、もう一つのクレートの名前の上に持っていくと、ドラッグしたクレートがサブクレートになります。サブクレートは折りたたむことができ、多数のクレートをもつことができるので、閲覧もしやすくなります。

列の設定をする

トラック情報のディスプレイエリアは、下記のような列 (columns) を表示するようカスタマイズすることができます。

- Added (追加された)
- Album (アルバム)
- Artist (アーティスト)
- Bitrate (ビットレート)
- BPM
- Comment (コメント)
- Composer (作曲家)
- Filename (ファイル名)
- Genre (ジャンル)
- Grouping (グループ分け)
- Key (キー)
- Label (レーベル)
- Length (長さ)
- Location (ロケーション)
- Remixer (リミキサー)
- Sample rate (サンプルレート)
- Size (サイズ)
- Track (トラック)
- Year (年)

ライブラリの右上にある三角形をクリックするとリストが表示されるので、オンとオフのフィールドを切り替えることができます。線の縁をつかみ、好きな幅にドラッグして列のサイズを変更することができます。

ID3タグを編集する

各トラックに関連した情報の多くはSerato DJ Intro内から編集することができます。メインライブラリ内のフィールドをダブルクリックして、それを編集することができます。ファイル名、長さ、サイズ、ビットレート、サンプリングは編集できません。これらの情報はファイル自体に保存されています。

ヒント: テキストを編集するには、キーボードショートカットのCtrl + Eを使用してください。編集モード中に、Ctrl キーを押しながら矢印キーを押すと、別のフィールドに移動できます。複数のトラックを選択した場合、編集タグは選択したすべてのトラックに対して変更を行います。

ヒント: ライブラリ内の2番目の列は、そのトラックのラベルの色です。クリックでカラーパレットを表示させ、そのトラックのバーチャルデッキをカスタマイズできます。

注: 読み取り専用のトラックには、ロックアイコンが表示されます。

ライブラリの自動バックアップ

Serato DJ Introは、ハードディスク上に_Serato_というフォルダを作成します。それはライブラリデータベースやクレート情報、その他の情報を格納します。この_Serato_フォルダは、Windowsではマイミュージックのフォルダ、Macではミュージックフォルダにあります。

Serato DJ Introは、ライブラリにファイルを追加した元の外付けドライブにも_Serato_フォルダを作成します。最初にSerato DJ Introを終了するとき、ライブラリをバックアップするように求められます。このバックアップでは、システムドライブと、_Serato_フォルダを含む接続されているすべての外付けドライブに_Serato_フォルダのコピーを作成します。バックアップフォルダは_SeratoBackup_という名前です。最初のバックアップ後、そのドライブの最後のバックアップが1週間以上前の場合、またはバックアップが存在しない場合は、再度バックアップするように求められます。Serato DJ Introは一度に1つのバックアップしか維持できません。Serato DJ Introをバックアップする度に、前回のバックアップに上書きされます。

注: Serato ITCH、またはScratch Liveの以前のバージョンをお持ちの場合、ライブラリのフォルダの名前は"_Serato_"ではなく"ScratchLIVE"の場合があります。

再スキャンID3タグ (Rescan ID3 Tags)

Rescan ID3 tagsボタンは、Filesパネルで見つけることができ、ライブラリ全体のファイルのタグを再読み込みします。他のソフトウェアでファイルタグの編集や変更をした場合は、この機能をお使いください。

Serato ITCH / Scratch Live 互換性

Serato DJ Introは、Serato ITCHやScratch Liveと同じライブラリを使用します。既存のITCHやScratch Liveのユーザーの場合、すべての音楽やキューポイントはSerato DJ Introで使用可能です。Serato DJ Introでライブラリを作成して、ITCHやScratch Liveをインストールしたとき、Serato DJ Introからの音楽やキューポイントは自動的にITCHやScratch Liveで使用可能です。いずれのプログラムで行ったどんな変更もライブラリに書き込まれるので、既存のキューポイントがあるトラックをシステム間で移動させるときは、これらのことをご注意ください。

表示モード

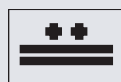
Serato DJ Introはあなたのパフォーマンススタイルに合わせた、2つの表示モードを提供します。

Display Modeのボタンは、メイン画面の左上にあります。

使用可能な表示モードは次の通りです：



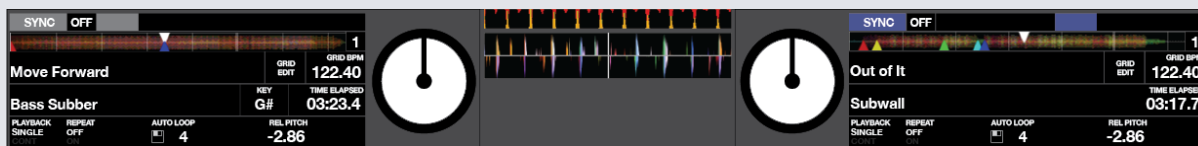
クラシック垂直モード：2つのデッキが画面の左右に表示され、その間に垂直の波形をもちます。



クラシック水平モード：2つのデッキが画面の左右に表示され、その間に水平の波形をもちます。

メイン画面の概要

バーチャルデッキ



バーチャルデッキは、トラックのスピードやポジションを表示します。トラックがバーチャルデッキにロードされたとき、黒のストライプが黒から白に変わります。トラックが進行するにつれて、バーチャルデッキは回転します。エッジの周りの円形のプログレスバーは、トラック内のポジションを視覚的に表示し、トラックが終わりに近づいていることを警告するためトラックの終わりの20秒間点滅します。

トラックの表示

トラックがロードされると、トラック名、アーティスト、長さ、キー、調整されたBPMがトラックのタイトルバーに表示されます。ファイルに含まれていない情報は表示されません。この下に表示されるのが、ピッチと再生です。

経過時間と残り時間は分と秒で表示されます。

調整されたBPMは、ピッチスライダーのポジションに関して、Serato DJ Introコントローラで再計算されたBPMの値です。

Pitchは、Serato DJ Introコントローラで、ピッチスライダーのポジションに適切なようピッチの値を表示します。

Key Lockがオンのときは、曲のキーやピッチは通常で再生していた場合と同じまま固定します。Key Lockにはスクラッチディレクションがあり、自然なスクラッチ音のためスクラッチ時に自動的にオフになります。

現在のトラックのためのKeyタグを表示します。(使用可能な場合)

Playbackを使用すると、お好きな再生モードを選択することができます。Singleは曲が終了に達したあとと無音となり、Contはトラックが終了に達したとき、プレイリスト内の次のトラックがロードされ再生を継続することを意味します。

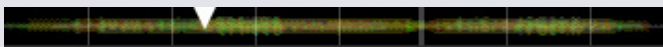
タップテンポ

トラックにBPM情報が格納されていない場合は、トラックタイトルバーのBPMが通常表示される場所にタップテンポのボックスが表示されます。

Alt+スペースキーを押すと、バーチャルデッキの左側にテンポタッパーが有効になります。Alt+スペースキーを2回押すと、テンポタッパーはバーチャルデッキの右側に有効になります。計算するには、ビートに沿ってスペースキーをタップしてください。最初のビートをタップした後、ダブルタイムタッピング、ハーフタイム、各バーの開始等に切り替えることが可能です。範囲は、最初の2つのタップでセットされ、その後はあなたが心地よく感じる、四分音符、二分音符、全音符等、決まったリズムに切り替えることが可能です。BPMをリセットするにはEscキーを押し、BPMをトラックに保存するにはEnterキーを押します。またご希望であればマウスを使うこともできます。タップテンポボックスをクリックして、時間内にマウスボタンをクリックしてください。

注:ピッチスライダーでZeroである必要はありません。Serato DJ Introがあなたのために計算を行います。

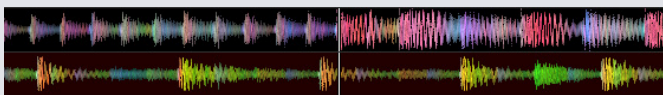
トラックの概要の表示



このエリアでは、トラックの波形の全概要を提供し、トラック内の現在位置を表示するマーカーが含まれています。このビューは、トラック内の移り変わりを確認するのに便利です。波形は音のスペクトルに合わせて変わり、赤は低周波のバス音、緑は中間周波音、青は高周波音です。トラック概要の表示 (track overview display) をクリックすることで、トラック内の異なるポジションにジャンプすることができます。概要の後ろのグレーの線はトラックの長さを表します。薄いグレーの線が毎分、太いグレーの線が毎5分を示します。ファイルを分析していない場合は、バーチャルデッキにトラックをロードすると概要が入力されます。

ヒント: プレイする前にファイルを分析してください。

メイン波形ディスプレイ (Main Waveform Display)



このエリアには、詳しいトラックの情報が表示されます。音の周波数を表示するための色分けがあり、赤は低周波のバス音、緑は中間周波音、青は高周波音です。トラック内の位置を "スクラブ" したり、微調整したりするために波形をクリックして長押しします。メイン波形はトラックの現在位置を中心に拡大表示します。

注: 波形は、ビートがいつ整列してタイミング内になるかを確認しやすくするため、Serato DJ Introコントローラ上でピッチスライドに比例します。

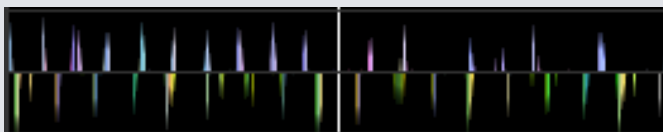
テンポマッチングの表示 (Tempo Matching Display)



テンポマッチングの表示のエリアは、ビートマッチングに便利なツールを提供します。Serato DJ Introはトラック内のビートを検出し、青色のピーク (右側トラック用) の行の上のオレンジ色のピーク (左側トラック用) の行を配置します。2曲のテンポが一致した場合、ピークは整列します。

この表示は、ビートの相対的なタイミングではなく、トラックのテンポのみを表示します。ピークはそれでもトラックが同じテンポで再生するとき整列しますが、一致はしません。

ビートマッチングの表示 (Beat Matching Display)



このビューは、トラック内のビートの位置を示しています。ビートマッチング時、このビューは2トラックのダウンビートを合わせることを補助します。2トラックのビートが一致したとき、マーカーが並びます。

ビートマッチのためのビジュアルエイド (Visual Aids) 使用例

この例では、再生しているトラックは左デッキにあり、挿入されるトラックは右デッキにあります。

- 1 右デッキのトラックの再生を開始します。数秒後、青色のピークがテンポマッチング表示に現れます。
- 2 青色のピークがテンポマッチングの表示にあるオレンジ色のピークの下に座るまで、Serato DJ Introコントローラの右デッキのピッチを調整してください。それらが揃ったとき、2つのトラックは同じテンポになります。
- 3 次に、ビートマッチングの表示でマーカーを整列させます。メイン波形の表示内で通り過ぎるアイテムの色をよく見てください。キックやベースドラムの色は赤色になり、スネアドラムは緑色が青色になることを覚えておいてください。

このテクニックが完璧なミックスを保証するわけではありませんが、ビートマッチングのプロセスのスピードアップに役立ちます。

ミキシング

ミキシング&再生

これまでに、トラックの検索、ロード、再生について記載してきました。トラックを再生したら、次のステップは別のトラックにそれをミックスすることです。

次のトラックを見つける

まず、ミックスをする次のトラックを見つける必要があります。適切なトラックを見つけるために、ライブラリを検索してください。

ヒント:ライブラリのBPM列は、現在のトラックに似たテンポのトラックを見つけ出すために役立ちます。

デッキにロードする

マウスやキーボードショートカットを使って、目的のバーチャルデッキに次のトラックをロードします:

- Ctrl+左矢印で左側のデッキにロードします
- Ctrl+右矢印で右側のデッキにロードします

別の方法として、Serato DJ Introコントローラの、relevant track-load ボタンを使用することができます。

詳細については、キーボードショートカットを参照してください。

再生

トラックの再生を開始するためにPlayボタンを押します。もう一度押すと、トラックは一時停止します。

連続自動再生

連続自動再生を有効にするには、Serato DJ Introのバーチャルデッキエリア内CONTボタンをクリックします。この設定をオンにしたとき、1曲の再生が終了すると次のトラックが自動的にスタートします。クレートからロードしてクレート内の曲を通して再生するか、またはライブラリからロードしてライブラリ内の曲を通して再生します。

トラックのピッチ/スピードを調節する

トラックの再生速度は、ハードウェアコントローラのピッチスライダー/ダイヤルによってコントロールされます。スライダーやノブを動かすと、トラックがスピードアップやスローダウンします。詳細については、ハードウェアマニュアルを参照してください。

Serato DJ IntroコントローラのPITCH RANGE/SHIFTボタンを使って、ピッチ範囲コントロールのピッチ範囲を調整することができます。詳細については、ハードウェアマニュアルを参照してください。

トラックを同じタイミングにする

ピッチ調整を移動すると、トラックをスローダウンやスピードアップさせます。これにより、異なるテンポの2つのトラックをタイミングよくミックスさせることが可能です。調整されたピッチとピッチのパーセンテージ (%) は、トラック情報の表示に示されます。

他のトラックとマッチするよう速度を調整する最も簡単な方法は、すでに再生中のトラックと同じBPM値のピッチを動かすことです。仮のキューポイントから繰り返しプレイし、ピッチスライダーを微調整することで、2つのトラックを全く同じ速度で再生させることができます。

キューポイント

Serato DJ Introには各トラックに5つの使用可能なキューポイントがあります。ハードウェアデバイスがハードウェアのコントロールを通して何個のキューポイントをセットし、トリガーできるかを決定します。

詳細については、ハードウェアマニュアルを参照してください。

注：キューポイントはファイルに保存され、次回それがロードされたとき呼び出されます。ファイルの移動やファイル名前の変更をしても、失われることはありません。

キューポイントの追加／削除

キーボードショートカットを使用してソフトウェア内のキューポイントを作成、トリガーすることができます。またオフラインプレイヤー内のキューポイントを設定し、削除することができます。



オフラインプレイヤーにキューポイントを設定するには、キューポイントを設定したい場所に再生ヘッドを設定して、+ボタンをクリックします。削除するには、そのキューポイントのXボタンを押してください。

このためのハードウェアのコントロールは、コントローラによって異なります。

詳細については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

キューポイントのトリガー

キューポイントが設定されたら、コントローラ上で該当のCUEボタンを押すと、いつでもそこにジャンプすることができます。再生が一時停止しているとき、キューポイントのトリガーはCUEボタンを押している限りその時点から再生され、ボタンを離すとキューポイントに戻り停止します。

ヒント：お使いのコントローラのCUEボタンを押しながら、あなたのコントローラ上でPLAY/PAUSEボタンを押した場合は、両方のボタンを離すと再生が継続されます。これは、一時停止モードからトラックを頭出しして、正しいミックスと確認できれば再生を継続することができます。

キューポイントのキーボードショートカット

キーボードショートカットを使用して、キューポイントにジャンプすることができます。

- 左デッキのキューポイントには、1～5。
- 右デッキのキューポイントには、6～0。

注：セットアップ画面で 'Playback keys use shift' を有効にした場合には、該当の数字キーを押す際にSHIFTを押し続ける必要があります。

ビジュアルエイド：キューポイントステータス



キューポイントを設定した時、バーチャルデッキのストライプが12時の位置にジャンプして色を変えます（ストライプがひとつの濃い色で12時の位置にある時、あなたはキューポイントにいる事を意味します）。トラックが、キューポイントの位置を超えて再生されると、色の付いたストライプは、各回転につき5分の1ずつ短くなります。同様にあなたがキューポイントに近づくと、色が各回転につき5分の1ずつ増えます。

仮のキュー

仮のキュー機能を使用すると、ファイルに保存されていないトラックに仮のキューポイントを設定することができます。これは、トラック内のポイントを見つけるために便利で、ミックスを正すようにこのポイントから簡単にやり直すことができます。一時停止している間、キューポイントが正確にダウンビートに設定されていることを確認するために、プラッターを使用して再生ヘッドの配置を微調整することができます。

あなたはSerato DJ Introキーボードのホットキーを使用して、仮のキューポイントを設定することができます。

- CTRL + I = 左デッキにキューポイントを設定
- CTRL + K = 右デッキにキューポイントを設定

注：Playは仮のキューを設定するために一時停止する必要があります。

コントローラ上の仮のキューに関連したボタン（通常は'CUE'）を押して、仮のキューが設定されたら、その仮のキューポイントから再生されます。ボタンを離すと再生は一時停止し、仮のキューの位置に戻ります。これはトラックのはじめにスタッターするときには適しています。

お使いのコントローラの 'CUE' ボタンを押しながら、あなたのコントローラ上でPLAY/PAUSEボタンを押した場合は、両方のボタンを離すと再生が継続されます。これは、一時停止モードからトラックを頭出しして、正しいミックスと確認できれば再生を継続することができます。

この 'CUE' ボタンはまた、再生しているトラックがこのポイントに戻り、デッキを一時停止するとき押すことができます。仮のキューの場所を変更するには、別の場所で再生ヘッドとともにデッキを一時停止にして、再び 'CUE' ボタンを押してください。仮のキューポイントも、トラックのプリセットポイントから繰り返しスタートさせるのに役立ちます。これを使用することで、正しくなるまで簡単に数回ドロップすることができます。

ルーピング

ループ機能は、お使いのSerato DJ Introコントローラ上のループに関連したボタンまたはノブを使用してコントロールし、設定されます。詳細については、ハードウェアマニュアルを参照してください。

マニュアルループ

ループを作成するには、INボタンをクリックしてインポイント、OUTボタンをクリックしてアウトポイントを設定してください。ループをオンやオフにするには、LOOPボタンをクリックします。

ループを有効にしたとき、再生ヘッドをループのはじめにジャンプさせたい場合は、コントロールキーを押しながらLOOPボタンを押してください。

ループのインポイントを調整するには、ループスタートを延長や短縮するために、INボタンを押したままプлатターを動かしてください。この変更を保持するには、INボタンを離します。アウトポイントを調整するときも同様で、OUTボタンを押しながらプлатターを調整します。

自動ループ

自動ループ (Auto-looping) を使用すると、即座にループを作成することができます。自動ループは1/8から8小節までの範囲です。自動ループの範囲を選択するには、ハードウェアで自動ループに関連するコントロールを使用してください。

Auto-Loopボタンを押すと、妥当な範囲内で再生ヘッドに近いビートのループスタートポイントを作成し、将来的にはループエンドポイントを設定します。ループは、Serato DJ Introで検出された曲のビートにスナップされるので、もしボタンを押し遅れてしまっても、Serato DJ Introがあなたのために完璧なループを作成します。

自動ループがアクティブな間に再びauto-loopを押すと、ループは無効になります。ルーピングがアクティブな間に自動ループの量を調整すると、現在のループのエンドポイントを適切な新しい自動ループの長さに延長します。

注：自動ループはトラックのBPM値からループを計算するので、あなたのトラックが自動ループする前にAnalyze (分析) されていることを確認してください。

同期 (SYNC)

Syncを押すと、BPM値とトラックのトランジェントの両方にマッチします。次のトラックをドロップしてそのタイミングがずれていた場合、Syncを押すことで自動的にビートを同期させることができます。ビートの同期は、2つの近いトランジェントをスナップして、BPMをマッチすることによって機能します。

SYNCパネルの右側のOFFボタンをクリックして、これをオフにすることができます。これはピッチをトラックの絶対ピッチに戻し、ハードウェアのピッチスライダーコントロールにも反映します。

デッキ上で同期を実行する場合、そのデッキがマスターデッキに同期される間、そのデッキはSlave Deck になります。同期されるBPM値はマスターデッキから取得されます。

相対ピッチ&ピッチコントロール

同期時にデッキのハードウェア上でピッチスライダーやダイヤルの調整をすると、同期中のすべてのトラックのテンポを変えます。

デッキが同期しているときのピッチの変更は、すべての同期デッキのピッチに影響を与えます。これを相対ピッチと呼びます。

デッキで同期を解除すると、ピッチがハードウェアのスライダーで示されるその絶対ピッチレベルに戻ります。

平均BPMとテンポ変更

ファイル分析は平均BPMの計算をするのみで、トラックの実際のテンポは表示されたBPM値と異なる場合があります。これは、さまざまなテンポをもつトラック（ロック、レゲエ、ファンク、ジャズ、ライブ録音などの音楽タイプ）もしくはさまざまなBPMをもつトラック（ビニール録音、古いライブ録音、不完全にエンコードされた音楽など）に起きることがあります。

サンプルプレイヤー



サンプルプレイヤー

サンプルプレイヤーを使うと、バーチャルデッキで再生するトラックに加えて、オーディオのソースを4ソースまで再生することができます。Serato DJ Introライブラリ内のどんなオーディオファイルも4つのスロットのいずれかにロードすることができ、ショートサンプル、オーディオループ、サウンドエフェクト、または全長トラックの再生を可能にします。

注：サンプルプレイヤーは、ハードウェアが接続されている場合にのみ動作可能で、オフラインプレイヤーモードでは動作していません。

サンプルプレイヤーの概要

サンプルプレイヤーのウィンドウにアクセスするには、Samplesボタンをクリックしてください。

- Overview：各トラックの概要を表示します。
- Play from：ロードされたトラックの再生を開始する位置（スタート/キューポイント/ループ）を選択します。
- Level meter：サンプルスロットの音量レベルを表示します。

サンプルプレイヤーに音楽をロードする

トラックをサンプルプレイヤーにロードするには、ライブラリからサンプルスロットのいずれかに目的のファイルをドラッグ&ドロップします。トラックを取り出すには、タイトル表示の右にあるejectボタンをクリックします。

ヒント：ライブラリから4トラックを選択して、最初のサンプルプレイヤーのスロットの上にドラッグしてください。すべての4つのスロットにわたって4トラックを同時にロードすることができます。

サンプルを再生する



各スロットのplayボタンを押すと、ロードされたオーディオを再生します。ALTを押しながらクリックすることで、オーディオの再生を止めることができます。

サンプルプレイヤーの 'Play From' セレクター

トラックから再生する場所を選択するには、'Play From' セレクターを使用してください。ファイルの先頭、またはキューポイントのいずれかからトラックの再生を選択できます。



これは最初から再生したり、キューポイントから再生するように設定する場合、トラックはこの位置から再生をします。

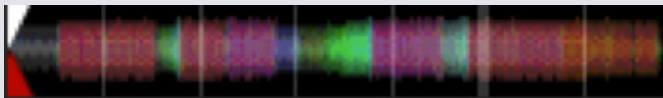
オプションの数は、トラックに設定されたキューポイントの数によります。例えば、ロードされたトラックにキュー

ポイントが設定されていない場合、"Play From" のオプションとして "start" のみが有効です。

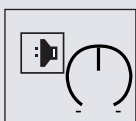
ヒント:トラックのキュー情報を設定して調整するには、それをバーチャルデッキにロードし、調整を行い、その後サンプルスロットに戻しロードします。

サンプルプレイヤーのトラック概要

各サンプルスロットにロードされたトラックの概要を表示します。波形、プレイヘッドの位置、キューポイントがすべて表示されます。



サンプルプレイヤーの音量



全体的なサンプルプレイヤーの音量を調整するために、マスターサンプルプレイヤーのゲインノブを使用してください。

DJ-FX

DJ-FXでは、1ユニットに3つの連鎖エフェクトスロットがある、2つのFXユニットをコントロールをすることができます。FX2が右デッキに適用される間、FX1は、左デッキに適用されます。

あなたの特定のハードウェアデバイスが、ハードウェアのFXコントロールを決定します。

詳細については、ハードウェアマニュアルを参照してください。

ビートマルチプライヤー

ビートマルチプライヤー (Beats Multiplier) はエフェクトタイムを調整するために使用されます。エフェクトタイムは、トラックのBPM値を使用して設定しますが、ビートマルチプライヤーを適用することにより、エフェクトタイムを増減することができます。

テンポソース

デッキのテンポ、またはエフェクトタイムのためのテンポソースの手動設定のいずれかを選択することができます。これを行うには、あなたのトラックに合わせてTempo Source ボタンをクリックしてください。デッキのテンポに戻すには、リセットするまでクリックし続けます。

追加の設定

画面の設定

設定画面では、どう作業したいかに応じてSerato DJ Introのいくつかの要素をカスタマイズすることができます。Serato DJ Introソフトウェアのバージョンは、設定画面の左下隅に表示されます。

一般設定

Shiftを使った再生キー

このオプションを使用すると、すべてのキューポイント、ループ、およびコンピュータキーボードの一般的な再生キーが機能するためには、shift または caps lock が必要です。

インスタントダブルス

インスタントダブルスを使うと、両方のデッキにある同じファイルの再生ヘッドの位置をすばやく一致させることができます。

有効にすると、1つのバーチャルデッキ (またはサンプルスロット) にトラックをロードします。その時、トラックは既に他のバーチャルデッキにロードされている同じファイルである必要があります。再生ヘッドが再生中のトラックの位置にジャンプします。

注: この設定は、スタートからプレイを上書きして、最初のキューポイントオプションから再生します。

アウトプット

モノラルまたはステレオのオーディオ出力を設定することができます。

オートゲインの使用

チェックボックスをオンにすると、トラック再生中のゲインを最大量に設定することができます。ロードされたトラックのゲインがこの設定よりも低い場合、そのゲインは自動的に押し上げられます (そのいちばん音量の大きいポイントにオートゲインレベルがマッチします)。

iTunesのライブラリを表示

Serato DJ Introライブラリで、iTunesライブラリとプレイリストを表示するには、“show iTunes library” オプションをチェックします。



iTunesのアイコンをクリックして、iTunesプレイリストを折りたたむことができます。

Serato DJ Introライブラリから、iTunesのプレイリストやiTunesの曲を削除するには、“show iTunes library” のチェックを外してください。

Serato DJ Introライブラリに永久的にiTunesの音楽を追加するには、iTunesのプレイリストから“All” (Serato DJ Intro画面の一番左側) か、個々のクレートにトラックをドラッグ&ドロップします。

“All” に移動したすべてのファイル、既存のクレート、または新しいクレートは、“show iTunes library” のオプションがチェックされていない場合でもSerato DJ Introに残ります。ファイルが完全にSerato DJ Introに追加されたとき、iTunesロゴの表示が消えます。

注:

- iTunesライブラリに多数のトラックが含まれている場合、それをSerato DJ Introに読み込むために時間がかかることがあります。
- Serato DJ Introで行われたiTunesライブラリ内のトラックファイル情報の変更は、トラックを再生するまでiTunesには表示されません。
- Serato DJ Introでは、以前Apple iTunesミュージックストアで販売されていたようなデジタル著作権管理 (Digital Rights Management) システムで保護されたファイルを再生することはできません。iTunes PlusのファイルはDRMフリーです。
- iTunesはMacとPCで利用可能です。詳細については、www.apple.comをご確認ください。

アップデートのチェック

Check for Updatesボタンは、ウェブブラウザを起動しwww.serato.comに接続して、Serato DJ Introソフトウェアのバージョンに利用可能な更新があるかどうかをお知らせします。

注: 更新の確認のためにインターネットに接続する必要があります。

ハードウェア

USB バッファサイズ(レイテンシー)

Serato DJ Introは、小さなチャンクで音声データを処理します。小さなチャンクを使用すると、プлатターの動きがより頻繁に音声に変換されます。その結果、システム全体の待ち時間を減らすことができます。しかし、これはより多くの処理能力と高いCPUロードを必要とするので、低いバッファサイズの設定では中断のない音声を作り出すために、より能力の高いコンピュータが必要になります。厳密なコントロールが必要な場合は、この設定を減らし必要があります。それに対して音声のドロップアウトが発生する場合は、この設定を増やす(またはより能力の高いコンピュータを使用する)必要があります。

ショートカット

キーボードショートカット

これらのアクションは、コンピューターのキーボードから直接アクセスすることができます。

注:再生、キュー、スピードコントロールには、ShiftやCaps Lockが使用できます。設定画面でこれをオフにすることができます。

詳細については、[Shiftを使った再生キーを参照してください](#)。

キー	アクション
ctrl - L	現在のトラックを探し出します (Locate)。これは一番最近ロードしたトラックをハイライトします。ctrl - L を再度押すと、両方のデッキに最近ロードされたトラックが切り替わります。
ctrl - R	明らかにする (Reveal) - ハイライトした曲をファイルブラウザで開きます。
ctrl - F	見つける (Find) - 検索ボックスにカーソルを移動します。
ctrl - A	すべて (All) を選択します。
ctrl - E	テキストを編集 (Edit) します。
ctrl - Z	最後のトラックのロードを元に戻します。
ctrl - P	準備 (Prepare) ウィンドウにトラックを追加します。
ctrl - O	デフォルトのMP3/WAV/OGG/AIFプレーヤーでトラックを開きます (Open)。
タブ	クレートや曲の間のフォーカスを逆にします。
ctrl - del と ctrl - backspace	ライブラリから曲を削除し、クレートからトラックを削除し、クレートを削除します (ファイルは削除されません)。
alt - del と alt - backspace	クレートやライブラリから曲を削除します。
Esc	検索時の検索文字列をクリアにしたり、またはScratch Liveを終了します。
タブ	キーボードフォーカスをパネル間で転送します。
Shift - Tab	パネル間のキーボードフォーカスを逆にします。
Space	BPMをタップします。
Alt - Space	BPMをタップします (デッキの切り替え)。

トラブルシューティング

Serato DJ Introのパフォーマンスの低下を感じたときは、下記の事項を試すと改善されるかもしれません。更新プログラムの確認には、設定画面のCheck for Updatesボタンを使用するか、サイトを訪問してください：www.serato.com

- 開いている他のすべてのプログラムを終了してください。
- ワイヤレスネットワークデバイスを無効にしてください。
- Bluetoothデバイスを無効にしてください。
- ウイルス対策ソフトを無効にしてください。
- スクリーンセーバーを無効にしてください。
- スリープモードを無効にしてください。
- USBバッファサイズを上げてください。
- USBハブを経由せず、コンピュータのUSBポートに直接Serato DJ Introコントローラを接続してください。
- 他よりもよく動作するポートがあるため、すべてのUSBポートを試してください。
- 他のUSBデバイスを切り離してください。
- 電源に接続したノートパソコンを起動してください。

その他のトラブルシューティングのヘルプはこちらをご覧ください：www.serato.com

SERATO DJを試す

Serato DJ Introの使用中にTRY Serato DJ (Serato DJを試す) オプションがあります。TRY Serato DJボタンをクリックすると、Serato DJの詳細や、Serato Online StoreでSeratoDJを購入できるserato.comへジャンプします。

TRY serato DJ

Serato DJはDJ Introコントローラのための最高の機能セットを提供しています。

- iZotope搭載の最高で新しいFX
- セットを記録、保存して共有
- 外部デバイスへのMIDIマッピングが簡単に
- 高度なループやキュー
- 適応コントローラ上の最大4デッキと混合
- 高度なサンプラー
- Serato VideoバンドルのビデオDJ